

Report.2

こども環境学会 第6回合同セミナー 報告 「こどもを育む環境 れきし・しぜん・しくみ」

1. 大会概要

日時：2017年9月16日(土)・17日(日)

会場：桜花学園名古屋短期大学

主催：こども環境学会第6回合同セミナー開催委員会

共催：公益社団法人こども環境学会

後援：豊明市、名古屋市、愛知県

協力：学校法人桜花学園(名古屋短期大学・桜花学園大学)

参加者数：一般45名、学生3名、保育実践参加親子30組、
学生スタッフ12名、計120名

2. エクスカーション1～有松旧街道めぐり～

台風の接近が心配されるなか、名古屋短期大学大草知裕氏の案内のもと、見学した。有松駅に集合後、ガイドの案内を受けながら江戸後期から昭和初期の建物が残る街並みを散策した(写真1)。建物だけでなく、現在も染色に関わる職人や、皮革と絞りを組合わせた新製品の店舗なども見学し、最後に、絞会館にて名古屋城本丸の「竹林豹虎図」を有松絞りと友禅で再現したものを背景に記念写真を撮影した。



写真1

3. 基調講演「伝統環境におけるこどもとあそび」

基調講演は、松本直司氏(名古屋工業大学・名誉教授)が、テーマから「伝統」をピックアップし、人々の生活を含めた「伝統環境」という観点から氏が関わってきた中津川市の中津川宿、瑞浪市の大湫宿の景観を事例にこども不在となっている景観の傾向や特性を指摘した(写真2)。また対策として水場、道路、広場など小さいこどもが安全に遊べる設えの重要性等を説いた。



写真2

4. シンポジウムテーマ「こどもを育む環境 れきし・しぜん・しくみ」

シンポジウム冒頭では、コーディネータの名古屋短期大学原田明美氏から趣旨説明があった。そのなかで印象的であったのは氏が紹介された平安末期の歌謡集、梁塵秘抄のなかの一節である「遊びをせんとなや生れけむ ～以下略」である。現代では、児童公園をはじめとするこどものための施設はとかく迷惑がられるが、こどもを育む環境整備の第一歩は周囲の大人の意識改革であることを再認識した。また各シンポジストからは、自身の専門分野の視点から以下のような発表が行われた(写真3)。



写真3

1. 協育NPO母里ん子 西川とし子氏：人類進化の歴史から学ぶこどもの発育における遊びの重要性
2. 幼保連携型認定こども園 寺子屋まんぼう 牧野彰賢氏：現代における母親・家族の孤立化の状況及び孤立化の問題に関連する名古屋市の保育施設の現況と対応策
3. 桶狭間古戦場保存会 大中隆行氏：信長が今川氏に勝利したことに由来する「大金星のまち」豊明の歴史資源を活用した取組み
4. 名古屋短期大学 辻 広志氏：名古屋短期大学キャンパス周辺の自然環境に生息する動植物とそれらを活用した実践学習

各発表は、発表者自身が積み重ねた実践的活動に裏付けられたもので、この上ない説得力で聴衆の胸に届いたことは最後の拍手により確認することができた。

5. 研究発表・活動報告 報告

研究発表については、「こどもの環境・行動」、「こどもの教育・学習」、「こどもの遊び・デザイン」の2セッションにわかれ、10編の発表があった。また活動報告については、「こどもの学習・

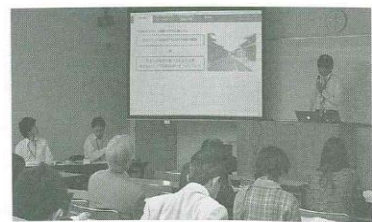


写真4

地域活動」、「こどもの環境・子育て」という2セッションで7編の発表があった。各会場からは多くの質問や意見があり、活発な議論がなされた(写真4)。

6. 研究交流会 報告

名古屋短期大学内の学生食堂にて研究交流会が行われた。参加者は38名であった。第3回合同セミナーにも参加された華将と真澄によるライブ演奏と透明感のある繊細な歌が披露され、聴衆を魅了した(写真5)。

また会場へ至る通路は、名古屋工業大学・石松丈佳研究室による光の演出が施され、会に華を添えた。



写真5

7. 講演と実技『遊びと発達』障害児を障害児と呼ばないで』報告

2日目はNPO富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊理事長早川たかし氏の講演と実技から開始した(写真6)。開

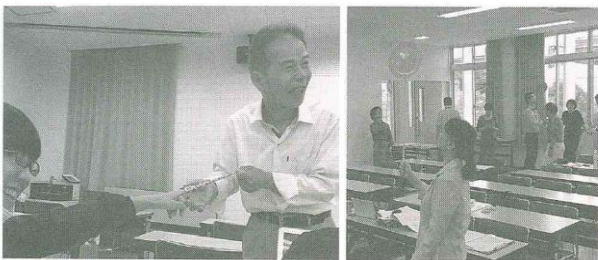


写真6

始時刻が早かったが、参加者も次第に増え盛況であった。氏はこども環境学会および関連のセミナー等に幾度となく参加されているが、講演を今回のような時間を設けて行うのは初体験であるとのことであった。講演は、氏お馴染みの皿回しなど実技を交えた楽しいものであったが、講演によって、実技が大人にこそ必要な「こども力」、「遊び力」を喚起し、コミュニケーションを促進する一種のツールであることが理解できた。今後は、実技と合わせて趣旨説明の時間を設けられることを切望する。

8. こども環境と保育実践 報告

名古屋短期大学6号館1階のリズム室において、西川と

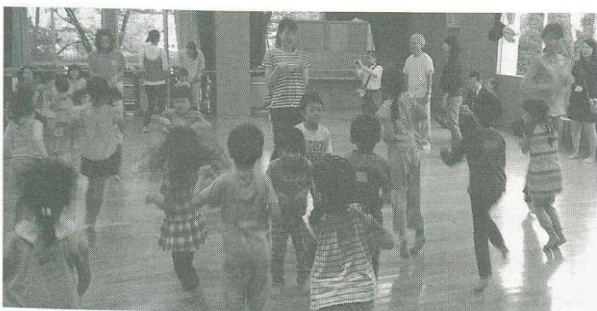


写真8

し子氏が主宰する協育NPO母里ん子の母子30組による保育実践が行われた(写真7)。セミナー参加者が、積極的に活動する母子の姿に感嘆の眼差しを向けている様子が印象的であった。また次第に誘われるように母子の輪のなかに溶け込んでいく参加者も多数見られた。

9. 昼食・流しそうめん焼き芋 報告

昼食もイベントとして位置づけられた。島田実行委員長は、名古屋短期大学職員の方と協力し、青竹による全長約30mの巨大流しそうめん装置を用意した(写真9)。また農園で育てた芋をふかして参加者に提供した。ダイナミックな流しそうめんは、保育実践に参加した母里ん子のこどもたちは勿論、全参加者に大変好評であった。

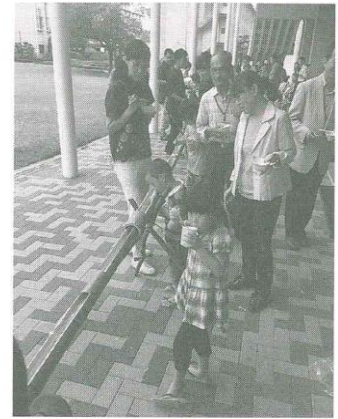


写真9

10. エクスカーション2 桶狭間甲冑体験

桶狭間古戦場保存会、大中隆行氏らのご厚意により保存会会員により制作された紙製の甲冑を装着体験させて頂く機会を得た(写真10)。母里ん子の母子約10組とセミナー参加者約10名が体験を行った。精巧に制作された甲冑は、重厚な外観とは対照的に非常に軽く約3kgということであった。参加者は、積極的に装着を体験しており、とりわけ大人の参加者の喜んだ表情が印象的であった。



写真10

11. おわりに

これまで、こども環境学会の大会やセミナーの東海地区における開催は、名古屋工業大学での開催であったが、今回は、島田実行委員長の提案により、東海地区では初めて名古屋短期大学での開催となった。式庄、原田副委員長はじめ名古屋短期大学の先生方とともにしっかりとした実行委員会を組織することができ、初開催にもかかわらず多彩なプログラムを実施することができた。

残念ながら台風18号の影響が懸念されるなかでの開催となったが、約三分の一は名古屋市以外からの参加であった。また台風の対応に関する文書を作成する事態となったが、最後のエクスカーション2の一部を残して全てのイベントを実施することができた。

文責 東海こども環境研究会代表 石松